



**U B E 株式会社**

2023 年度通期連結決算説明会

2024 年 5 月 13 日

## イベント概要

---

[企業名]	U B E 株式会社
[企業 ID]	4208
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年度通期連結決算説明会
[決算期]	2023 年度通期
[日程]	2024 年 5 月 13 日
[ページ数]	26
[時間]	18:00 – 18:58 (合計：58 分、登壇：34 分、質疑応答：24 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	1 名 取締役執行役員 CFO 石川 博隆 (以下、石川)

## 登壇

**司会**：投資家の皆様、こんばんは。本日はお忙しい中、UBE株式会社の決算説明会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

これより取締役執行役員 CFO、石川博隆より、2023年度通期連結決算について、約30分間ご説明申し上げた後、質疑応答を行います。

説明会を始めます前に、皆様にお断り申し上げます。これから行う説明におきまして、現時点の予想に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、それらは全てリスクならびに不確実性を伴っています。実際の結果が見通しと異なる場合があることを、あらかじめご了承ください。

なお2024年5月31日16時より、UBE三菱セメント株式会社の2023年度決算説明、および中期経営計画進捗説明会を予定していますことを、併せてご案内申し上げます。

それでは、説明を開始いたします。石川 CFO、よろしくお願いいたします。

**石川**：取締役 CFO の石川です。本日はお忙しいところご出席くださいます。ありがとうございます。

それでは早速ですが、資料に沿ってご説明いたします。

### 2023年度 連結決算概要

**UBE** / UBE株式会社

### 連結対象会社

項目	2022年度末 (A)	2023年度末 (B)	増減 (B) - (A)	摘要
連結 子会社数	36社	36社	0社	+ UBE C1 CHEMICALS AMERICA, INC. - 株式会社UBE科学分析センター
持分法 適用会社数	15社	16社	1社	+ 株式会社UBE科学分析センター
計	51社	52社	1社	

まずは 2023 年度の連結決算概要です。3 ページ目をご覧ください。

連結対象会社についてです。2023 年度末では、連結子会社数は 36 社、持分法適用会社数は 16 社、合計 52 社となりました。

摘要欄に異動を記載しております。今年 2 月に意思決定をいたしました。北米での DMC、EMC 製造を担当するために設立した UBE C1 CHEMICALS AMERICA が連結子会社に追加されております。

また、UBE 科学分析センターは株式の 50%以上を譲渡いたしましたので、連結子会社から持分法適用会社に異動しております。

## 環境要因

項目			2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	135.5	144.6	9.1	
資 材 価 格	ナ フ サ	CIF	\$/ t	793	671	△ 122
		国産	円/KL	76,400	69,000	△ 7,400
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	1,038	939	△ 99
	豪州炭 (CIF)		\$/ t	393.8	194.8	△ 199.1
			円/t	53,337	28,165	△ 25,172

4

続きまして、4 ページ目です。環境要因です。

為替レートについて、23 年度は 144.6 円となり、前年度対比では 9.1 円の円安となりました。資材価格については、ナフサ、ベンゼン、豪州炭を記載しておりますが、いずれも価格は下落いたしました。特に豪州炭につきましては、2023 年度は 194.8 ドル/t となり、前年度対比で 5 割超下落いたしました。

## 主要項目

(単位：億円)

項目	2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	4,947	4,682	△ 265	△ 5.4%
営業利益	162	225	62	38.5%
経常利益	△ 87	363	451	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 70	290	360	-

(注) 2023年度において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。  
2022年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

5

続きまして、5 ページ目です。こちらには 2023 年度連結決算の主要項目を記載しております。

売上高は 4,682 億円となり、前年度対比で 265 億円、5.4%の減収となりました。営業利益は 225 億円となり、前年度対比では 62 億円、38.5%の増益となりました。経常利益は 363 億円です。前年度は赤字でございましたので、黒字になり、451 億円改善しております。

親会社株主に帰属する当期純利益は 290 億円です。同じく前年度の赤字から黒字となり、360 億円の改善となりました。

## セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント	2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	機能品	622	638	16	2.6%
	樹脂・化成品	2,934	2,572	△ 362	△ 12.3%
	機械	969	969	△ 0	△ 0.0%
	その他	731	805	74	10.1%
	調整額	△ 308	△ 301	8	-
	計	4,947	4,682	△ 265	△ 5.4%
営業利益	機能品	102	121	19	18.2%
	樹脂・化成品	26	24	△ 2	△ 6.4%
	機械	52	72	19	36.9%
	その他	26	45	20	75.2%
	調整額	△ 45	△ 38	7	-
	計	162	225	62	38.5%

(注) 2023年度において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。  
2022年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

6

6 ページ目、セグメント別の概要を記載しております。

まずは売上高ですが、減収要因をセグメント別で見ますと、全体として 265 億円の減収に対し、樹脂・化成品で 362 億円の減収となっております。

営業利益は樹脂・化成品がほぼ前年度並みとなりましたが、その他の機能品、機械、医薬事業を含むその他セグメントはいずれも増益となっております。

## 差異分析 全社

(単位：億円)



7

続きまして、7 ページ目をご覧ください。

売上高は 265 億円の減収でした。定性情報欄に主な要因を記載しておりますが、樹脂・化成品ではナイロンポリマー、カプロラクタムなどの販売が低調に推移しました。それからその他セグメントでは、エーピーアイコーポレーションを連結子会社化しております。これはプラスの要因ですが、樹脂・化成品のマイナス要因が大きいいため全体では減収となっております。

営業利益は 62 億円の増益です。主な増益要因としましては、機能品セグメントでは分離膜の販売が好調でした。機械セグメントは、成形機、産機のアフターサービスが堅調でした。またその他セグメントでは、医薬のロイヤリティ収入が増加しております。

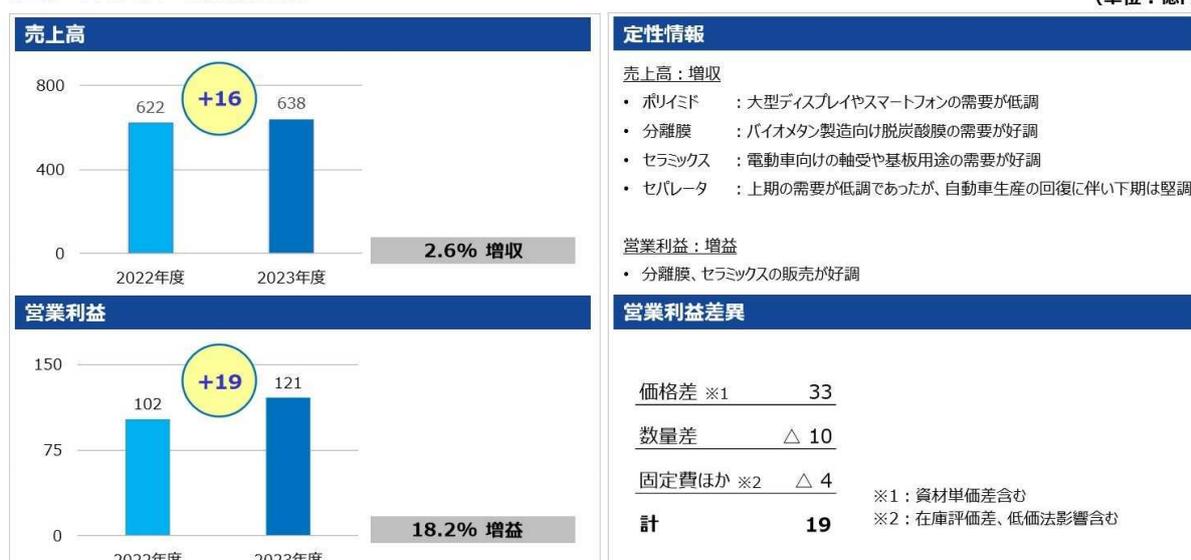
また、営業利益の差異を価格差、数量差等で見ますと、価格差では 36 億円のプラス、数量差では 35 億円のマイナス。固定費ほかでプラスの 62 億円となっております。

## 2023年度 連結決算概要

UBE / UBE株式会社

### 差異分析 機能品

(単位：億円)



8

続きまして、セグメント別に見てまいります。まずは 8 ページ目、機能品セグメントです。

こちらのセグメントでは、売上高が 16 億円の増収となりました。全体としては増収ですが、ポリイミドは大型ディスプレイやスマートフォンの需要が低調であったため、減収の要因となっております。

一方、分離膜ではバイオメタン製造向けの脱炭酸膜の需要が好調でした。セラミックスは、電動車向けの軸受や基板用途の需要が好調に推移いたしました。セパレータは上期の需要は低調でしたが、下期になり自動車生産の回復に伴い堅調となっております。

営業利益は19億円の増益となっております。増益の要因としましては分離膜、セラミックスの販売が好調に推移したことです。

営業利益の差異要因を右下に記載しております。価格差がプラスの33億円となっております。ポリミド、分離膜が主な要因です。

## 差異分析 樹脂・化成品

(単位：億円)



9

続きまして9ページ目、樹脂・化成品です。

こちら、売上高は362億円の減収となりました。サブセグメントで見ますと、パフォーマンスポリマー&ケミカルズで366億円のマイナス、エラストマーは4億円のプラスです。

定性情報を見てまいりますと、ナイロンポリマーは、食品包装フィルム用途の需要が総じて低調となりました。ただ、インド向けにつきましては堅調に推移しております。

それから、ラクタム・硫安はラクタムの用途であるナイロン繊維の需要減退により、販売数量、それから販売価格ともに芳しくありませんでした。

工業薬品につきましては、アンモニアの国内需要が低迷し、また価格も国際市況下落に伴い低下いたしました。ファインケミカルは競争激化により、製品の市況が下落し、また数量も減少いたしました。

続きまして営業利益ですが、こちらはマイナス2億円の減益となっております。サブセグメントで見ますとパフォーマンスポリマー&ケミカルズで31億円の減益、エラストマーは29億円の増益となっております。

減益の主な要因としましては、ファインケミカル、工業薬品の販売が低調になったことです。

右下に営業利益の差異を記載しております。価格差はマイナスの9億円となっております。主な要因はナイロンポリマー、工業薬品などです。数量差がマイナス20億円となっております。主な要因は工業薬品、ファインケミカルです。

## 2023年度 連結決算概要

UBE / UBE株式会社

### 差異分析 機械

(単位：億円)



10

続きまして10ページ目、機械セグメントです。

売上高につきましては、ほぼ前年度並みとなりました。

主な製品の概要ですが、成形機は上期に自動車産業向けの設備投資が低調に推移しましたがけれども、下期には回復いたしました。アフターサービスにつきましては、堅調に推移しました。

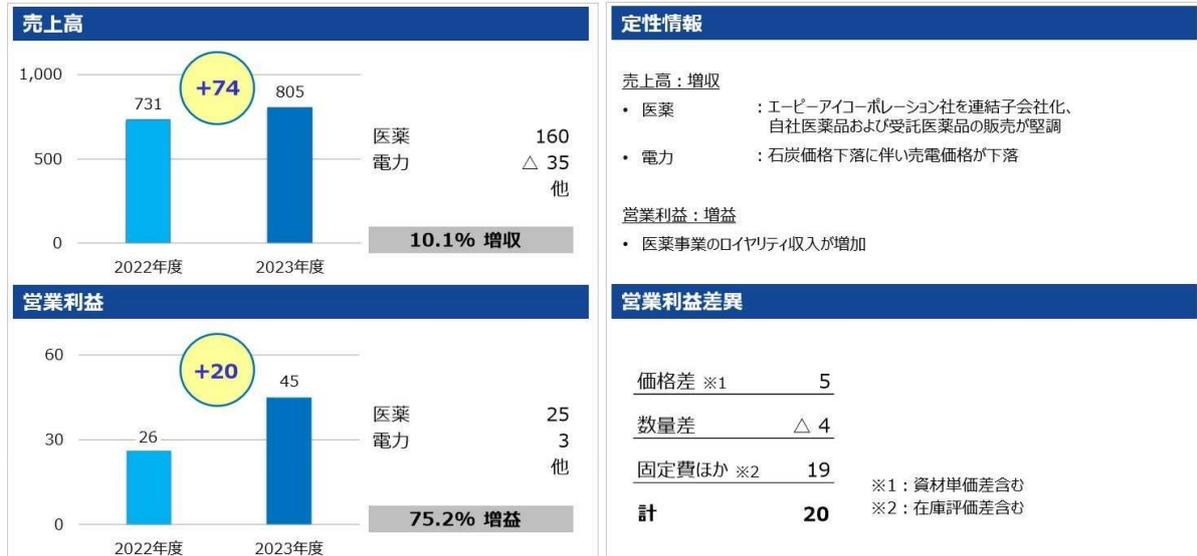
産機は製品の販売が増加し、またアフターサービスも堅調に推移いたしました。製鋼は国内、輸出ともに需要が減退し、販売数量が減少いたしました。

営業利益は19億円の増益となりました。成形機、産機のアフターサービスが堅調に推移したこと、また製鋼において原燃料価格が下落したことが主な要因です。

営業利益差異要因につきましては、機械部門の限界利益プラス 27 億円とのみ記載させていただいております。

## 差異分析 その他

(単位：億円)



11

続きまして、その他セグメントです。

売上高は 74 億円の増収となりました。医薬で 160 億円の増収、電力で 35 億円の減収となっております。

定性情報としましては、医薬でエーピーアイコーポレーション社を連結子会社化したこと、また自社医薬品および受託医薬品の販売が堅調に推移しました。電力につきましては、石炭価格下落に伴い売電価格が下落しております。

営業利益につきましては、20 億円の増益となりました。医薬で 25 億円の増益、電力で 3 億円の増益です。定性情報欄に記載している通り、医薬事業のロイヤリティ収入が増加したことが主な要因です。

営業利益差異要因でございますが、価格差がプラスの 5 億円です。主な要因は医薬です。それから、固定費ほかで 19 億円プラスとなっております。こちらは、医薬でのロイヤリティ収入の増加や、電力で 23 年度は定検がなかったことによる補修費の減少が増益要因となっております。

## 営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	162	225	62
営業外損益	△ 250	139	388
金融収支	7	29	23
持分法による投資損益	△ 231	123	355
うちUBE三菱セメント㈱に係る持分法投資損益	△ 246	130	377
為替差損益	5	15	10
その他	△ 30	△ 29	1
経常利益	△ 87	363	451
特別損益	61	△ 13	△ 74
税金等調整前当期純利益	△ 27	351	377
法人税等・非支配株主利益	△ 44	△ 61	△ 17
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 70	290	360
1株当たり当期純利益	△ 72.54円	298.59円	371.13円

(注) 2023年度において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。  
2022年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

12

続きまして12ページ、営業利益以下でございます。

営業外損益ですが、金融収支について、23年度はプラスの29億円となり、前年度対比では23億円の増益要因となっております。ただ、23年度には一過性の受取配当金が計上されており、こちらが増益の最大の要因です。

それから、持分法による投資損益は123億円でした。前年度対比で355億円の増益要因となっております。そのうち、UBE三菱セメントに係る持分法投資損益が23年度は130億円となり、前年度対比で377億円改善しております。

## UBE三菱セメント

### ■ UBE三菱セメント(株) 連結損益計算書

(単位: 億円)

項目	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想
売上高	5,763	5,853	6,050
うち海外事業	1,401	1,781	1,950
営業利益	△284	457	430
うち海外事業	80	307	280
経常利益	△258	477	420
親会社株主に帰属する 当期純利益	△473	246	210

### ■ UBE(株) 持分法投資損益

持分法による投資利益(損失)	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想
	△246	130	110

### ■ UBE三菱セメント(株) 定量情報

項目	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想
セメント(国内総需要) (万t)	3,724	3,458	3,500
セメント(国内) 販売数量 (万t)	909	820	850
セメント(米国) 販売数量 (万st)	163	173	179
生コン(米国) 販売数量 (万cy)	674	674	704
一般炭価格(参考指標) (\$/t)	356	142	180
ドル為替レート (円/ドル)	135	144	145

※ 上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。

### (参考) 2024年3月末 連結貸借対照表

(単位: 億円)

総資産	8,129	有利子負債	1,807	自己資本	3,649
自己資本比率	44.9%	D/Eレシオ	0.49倍		

- 国内事業：
  - 2023年度は、セメント事業で5,000円/トンの値上げの完遂や安価熱エネルギーの使用拡大等の改善効果があり、黒字を達成した。
  - 2024年度は、セメント事業で物流費や資材価格の上昇、環境エネルギー事業で電力販売減少等の減益要因はあるが、セメント値上効果の年間を通じた寄与と安価熱エネルギーの更なる使用拡大により、国内事業全体では2023年度並みの営業利益を見込む。
- 海外事業：
  - 2023年度は、主に米国生コン事業での値上げの早期の浸透等の効果により、対前年で大幅な増益となった。
  - 2024年度は、米国セメント・生コン事業では、資材価格や人件費等が上昇しコストアップとなるが、南カリフォルニア地区の需要回復による販売数量増や更なる値上げにより前年度並みの営業利益を見込む。一方で、豪州石炭事業では減益を見込んでおり、海外事業全体の営業利益は2023年度と比較して減益を見込む。

33

UBE 三菱セメントの概要につきましては、33 ページ目をご覧ください。

左上に連結損益計算書を記載しております。23年度の業績について、売上高は5,853億円となり、前年度対比で90億円の増収となりました。

営業利益は457億円でした。前年度対比では741億円の増益となっております。

その主な要因について下の段にコメントしております。国内事業につきましては、セメント事業で5,000円の値上げを打ち出し、おおむね完遂しております。また、安価な熱エネルギーの使用を拡大しています。これらにより、国内事業で黒字転換をしております。

また海外事業については、主に北米の生コン事業において値上げを行ったことにより、北米事業で大幅な増益となっております。

以上により、セメント関連事業は前年度の赤字から今年度に大きく黒字転換しております。その結果、当社が持分法投資損益として取り込む利益は130億円となり、前年度がマイナス246億円でしたので376億円の改善となりました。

## 営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2022年度 (A)	2023年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	162	225	62
営業外損益	△ 250	139	388
金融収支	7	29	23
持分法による投資損益	△ 231	123	355
うちUBE三菱セメント㈱に係る持分法投資損益	△ 246	130	377
為替差損益	5	15	10
その他	△ 30	△ 29	1
経常利益	△ 87	363	451
特別損益	61	△ 13	△ 74
税金等調整前当期純利益	△ 27	351	377
法人税等・非支配株主利益	△ 44	△ 61	△ 17
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 70	290	360
1株当たり当期純利益	△ 72.54円	298.59円	371.13円

(注) 2023年度において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。  
2022年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

12

前のページに戻っていただきまして、12ページ目です。以上の要因により経常利益は363億円となり、前年度が87億円の赤字でしたので、451億円改善しました。

続きまして、特別損益は13億円のマイナスとなっております。前年度は61億円のプラスでしたが、この中にはセメント関連事業の統合に伴う持分変動利益が含まれております。

そして、親会社株主に帰属する当期純利益は290億円となり、360億円改善しております。

## 貸借対照表

(単位：億円)

項目	2022年度末 (A)	2023年度末 (B)	差異 (B) - (A)
資産			
流動資産	2,831	2,957	126
固定資産	4,494	4,932	438
合計	7,327	7,890	564
負債			
有利子負債	2,181	2,134	△ 47
その他負債	1,329	1,462	133
計	3,511	3,597	86
純資産			
自己資本 *1	3,616	4,087	471
非支配株主持分他	200	207	6
計	3,816	4,294	477
負債・純資産合計	7,327	7,890	564

\*1:「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したものを示す

(注) 2023年度において、医薬品受託製造会社の企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行いました。  
2022年度末に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

13

続きまして 13 ページ目、貸借対照表です。

資産は 7,890 億円となり、564 億円増加しております。主な要因としましては、UBE 三菱セメントの利益を取り込んだことによる投資有価証券の増加が半分を占めております。それから、建設仮勘定も増えておりますが、これはポリイミド原料の BPDA やポリイミドフィルム設備の建設が進捗していることに伴うものです。

負債・純資産側で増えておりますのは、自己資本となります。4,087 億円となり、前年度末対比で 471 億円増えております。

配当金として 96 億円お支払いしておりますが、23 年度の当期純利益がプラスの 290 億円であり、また円安に伴う為替換算調整勘定や株価上昇に伴う有価証券評価差額金の増加などもあったため、自己資本が増加しております。

利益の上振れ、また自己資本のこのような増加を考慮し、年間配当予想につきましては 100 円の予想から 105 円の予想へと増額しております。

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

項目	2022年度	2023年度	
A.営業活動によるCF	181	530	税金等調整前当期純利益 351 減価償却費 266 運転資金の増減 △92 他
B.投資活動によるCF	△ 260	△ 333	有形・無形固定資産の取得 △310 短期貸付金の増減 △27 他
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△ 79	196	
C.財務活動によるCF	24	△ 157	有利子負債の増減 △61 配当金の支払 △96 他
D.現金及び現金同等物の増減 (含、換算差額等)	△ 481	52	
E.現金及び現金同等物の当期末残高	307	359	

14

続きまして、キャッシュ・フロー計算書です。

営業キャッシュ・フローは、プラスの 530 億円となっております。前年度対比で 349 億円の改善です。投資キャッシュ・フローは 333 億円のキャッシュアウト。こちらは 73 億円ほどキャッシュアウトが拡大しております。その結果、フリー・キャッシュ・フローは 196 億円となり、前年度対比では 275 億円の改善となりました。

なお、当社では、現金それから現金同等物は約 300 億円を目途として管理しております。おおよそこのぐらいの水準になるように、財務キャッシュ・フローでコントロールしております。

それから D.現金及び現金同等物の増減について、22 年度がマイナス 481 億円と大きな数字となっておりますが。この大部分はセメント関連事業分割に伴う現金等の減少によるものです。

以上が 23 年度の決算の概要でございます。

## 連結対象会社

項目	2023年度末 (A)	2024年度末 (B)	増減 (B) - (A)	摘要
連結 子会社数	36社	34社	△2社	－ 株式会社エーピーアイコーポレーション － 宇部愛科喜模高新材料(無錫)有限公司
持分法 適用会社数	16社	15社	△1社	－ 株式会社ユービーイーホテルズ
計	52社	49社	△3社	

16

続きまして、24 年度連結業績予想についてご説明いたします。16 ページ目、連結対象会社です。

連結子会社が 34 社、持分法適用会社が 15 社、合計 49 社となります。連結子会社では、医薬品の受託製造会社であるエーピーアイコーポレーションがマイナスとなります。これは当社に取り込むことによるものです。もう 1 社は、宇部エクシモの中国現地法人ですが、こちらは今年度清算しますので減少となります。以上 2 社が連結子会社の減少です。

それから、持分法適用会社は 1 社減となります。これはユービーイーホテルズを清算することによるものです。

## 環境要因

項目			2023年度 (A)	2024年度 (B)	差異 (B) - (A)	
為替レート		円/\$	144.6	150.0	5.4	
資材価格	ナフサ	CIF	\$/ t	671	700	29
		国産	円/KL	69,000	70,100	1,100
	ベンゼン (ACP)		\$/ t	939	905	△ 34
	豪州炭 (CIF)		\$/ t	194.8	168.0	△ 26.8
			円/t	28,165	25,200	△ 2,965

17

続きまして 17 ページ、環境要因でございます。

為替レートにつきましては 150 円です。5.4 円の円安を環境要因の前提としております。

資材価格のうち、ナフサ、ベンゼンについては、前年度とおおむね同レベルを想定しております。

豪州炭につきましては、前年度よりやや下落すると予想しております。

## 主要項目

(単位：億円)

項目	2023年度 (A)	2024年度 (B)	差異 (B) - (A)	増減率
売上高	4,682	5,100	418	8.9%
営業利益	225	270	45	20.2%
経常利益	363	370	7	1.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	290	295	5	1.8%
項目	2023年度末 (A)	2024年度末 (B)	差異 (B) - (A)	
総資産	7,890	8,500	610	
有利子負債	2,134	2,690	556	
自己資本 *1	4,087	4,240	153	
年間配当金 (円/株)	*2 105.00	*3 110.00	5.00	

\*1: 「自己資本」…純資産から新株予約権と非支配株主持分を除外したものを示す。

\*2: 105.00円 (中間配当金50.00円、期末配当金55.00円)

\*3: 110.00円 (中間配当金55.00円、期末配当金55.00円)

18

18 ページ、24 年度の連結業績予想の主要項目です。

売上高は 5,100 億円となり、前年度対比で 418 億円の増収です。営業利益は 270 億円となり、45 億円の増益です。経常利益は 370 億円となり、7 億円の増益です。親会社株主に帰属する当期純利益は 295 億円となり、5 億円の増益を予想しております。

それから、その下にバランスシートの項目を記載しております。総資産は 8,500 億円で、610 億円増加します。有利子負債も 2,690 億円で、556 億円増加します。ともに大きく増加しますが、これは設備投資に伴う固定資産の増加、またその資金調達として有利子負債が増加することによるものです。

自己資本は 4,240 億円となり、153 億円の増加を見込んでおります。こちらは利益の増加によるものです。

当社では現在の中計で、株主還元方針としまして DOE2.5%以上を掲げております。この DOE2.5%や自己資本の増加を踏まえて、年間配当は 110 円とし、前年度対比で 5 円の増配といたします。

今後も積極的な成長投資により、利益、それから株主資本の増加を図り、将来の株主還元の充実を目指してまいりたいと考えております。

2024年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

## セグメント別 売上高/営業利益

(単位：億円)

	セグメント	2023年度	2024年度	差異	増減率
		(A)	(B)	(B) - (A)	
売上高	機能品	638	700	63	9.8%
	樹脂・化成品	2,586	2,880	294	11.4%
	機械	969	1,040	71	7.3%
	その他	745	720	△ 25	△ 3.3%
	調整額	△ 254	△ 240	14	-
	計	4,682	5,100	418	8.9%
営業利益	機能品	121	125	4	3.2%
	樹脂・化成品	25	95	70	273.9%
	機械	72	70	△ 2	△ 2.3%
	その他	45	20	△ 25	△ 55.2%
	調整額	△ 38	△ 40	△ 2	-
	計	225	270	45	20.2%

(注) 2024年度より、UBE America inc. 及び UBE CORPORATION AMERICA INC. を「その他」から「樹脂・化成品」へセグメント変更しました。2023年度の各数値は新しいセグメントに組み替えた場合の参考値です。

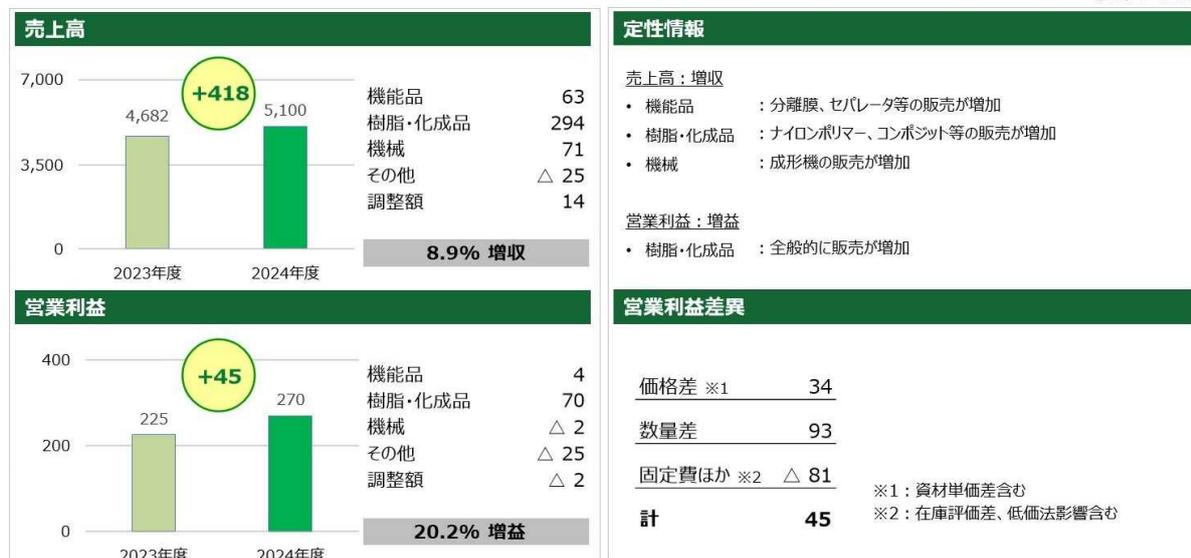
19

続きまして 19 ページ目、セグメント別の売上高、営業利益です。

売上高につきましては、機能品、樹脂・化成品、機械ともに増収を見込んでおります。営業利益につきましては、機能品、樹脂・化成品は増益を見込んでおります。機械につきましては若干減益にはなりますが、ほぼ前年度並みを見込んでおります。

## 差異分析 全社

(単位：億円)



20

続きまして 20 ページ、全社の差異分析でございます。

売上高につきましては、418 億円の増収となります。その主な増収要因を定性情報欄に記載しておりますが、機能品につきましては分離膜、セパレータ等の販売が増加いたします。樹脂・化成品につきましては、ナイロンポリマー、コンポジットの販売が増加いたします。機械セグメントにつきましては、成形機の販売が増加いたします。

それから、営業利益につきましては 45 億円の増益となります。主な増益要因につきましては、樹脂・化成品の販売が全般的に増加することによるものです。

## 差異分析 機能品

(単位：億円)



21

次のページ以降で、セグメントについて少し詳細に見てまいりたいと思います。

機能品につきましては、売上高は63億円の増収となります。その主な要因は定性情報欄に記載しております。分離膜がバイオメタン製造向けの脱炭酸膜を中心に販売が増加すること、またセパレータが自動車生産の回復に伴い増加することが主な要因です。

営業利益はプラス4億円となります。こちらも定性情報欄に記載しておりますが、その要因は分離膜、セラミックス、セパレータなどの販売が増加することです。

## 差異分析 樹脂・化成品

(単位：億円)



22

続きまして 22 ページ、樹脂・化成品です。売上高は 294 億円の増収です。

サブセグメントで見ますと、パフォーマンスポリマー&ケミカルズで 269 億円の増収、エラストマーで 34 億円の増収です。その主な要因は、ナイロンポリマーにおいて食品包装フィルムなどの需要が回復すること、またコンポジットにおいて自動車生産の回復に伴い販売が増加することです。

営業利益は 70 億円の増益です。サブセグメントで見ますとパフォーマンスポリマー&ケミカルズが 89 億円の増益、エラストマーは 20 億円の減益となります。

その主な要因としましては、やはりパフォーマンスポリマー&ケミカルズでは、全般的に販売が増加し、また C1 ケミカルのライセンス収入も増加することです。

## 差異分析 機械

(単位：億円)



**定性情報**

売上高：増収

- 成形機：自動車産業向けの販売が増加

営業利益：減益

- 成形機の販売が増加する一方、産機の販売が減少

**営業利益差異**

機械部門限界利益 11  
(機械製品は個別受注生産品のため、価格差・数量差の差異分析を行っていない)

23

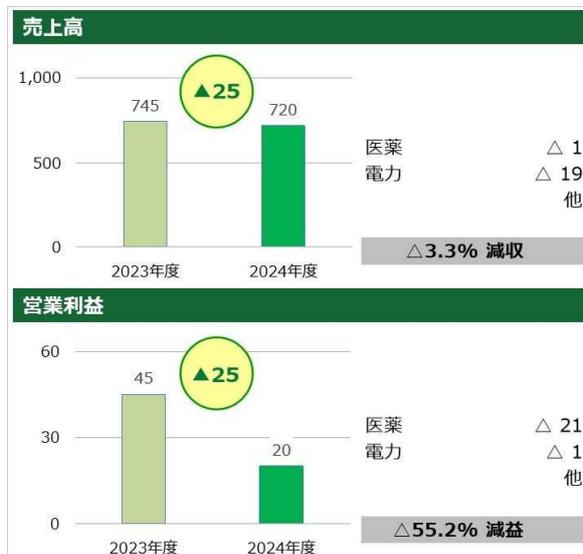
続きまして、機械セグメントです。

売上高は71億円の増収です。主な要因は、成形機において自動車産業向けの販売が増加することです。

営業利益は2億円の減益となります。成形機の販売は増加いたしますが、産機の販売が減少することによるものです。

## 差異分析 その他

(単位：億円)



**定性情報**

売上高：減収

- 電力：石炭価格下落に伴い売電価格が下落

営業利益：減益

- 医薬におけるロイヤリティ収入の減少

**営業利益差異**

価格差 ※1	12
数量差	1
固定費ほか ※2	△ 38
計	△ 25

※1：資材単価差含む  
※2：在庫評価差含む

24

24 ページ目、その他セグメントです。

売上高は 25 億円の減収となります。医薬が 1 億円の減収、電力が 19 億円の減収となります。電力において石炭価格下落に伴い売電価格が下落することが主な要因です。

営業利益は 25 億円の減益です。医薬が 21 億円の減益、電力が 1 億円の減益となります。その主な要因は、医薬におけるロイヤリティ収入の減少です。

2024年度 連結業績予想

UBE / UBE株式会社

## 営業利益～当期純利益

(単位：億円)

項目	2023年度 (A)	2024年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	225	270	45
営業外損益	139	100	△ 39
うちUBE三菱セメント(株)に係る持分法投資損益	130	110	△ 20
経常利益	363	370	7
特別損益	△ 13	10	23
税金等調整前当期純利益	351	380	29
法人税等・非支配株主利益	△ 61	△ 85	△ 24
親会社株主に帰属する当期純利益	290	295	5
1株当たり当期純利益	298.59円	303.89円	5.30円

25

続きまして、営業利益以下となります。

営業外損益につきましては、24年度は100億円を見込んでおります。対前年度比では39億円の減益要因となります。そのうちUBE三菱セメントに係る持分法投資損益は110億円となり、20億円の減益要因となります。こちらにつきましては、33ページ目をご覧ください。

## UBE三菱セメント

### ■ UBE(株) 連結損益計算書

(単位: 億円)

項目	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想
売上高	5,763	5,853	6,050
うち海外事業	1,401	1,781	1,950
営業利益	△284	457	430
うち海外事業	80	307	280
経常利益	△258	477	420
親会社株主に帰属する 当期純利益	△473	246	210

### ■ UBE(株) 持分法投資損益

持分法による投資利益 (損失)	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想
	△246	130	110

### ■ UBE三菱セメント(株) 定量情報

項目	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想
セメント (国内総需要) (万t)	3,724	3,458	3,500
セメント (国内) 販売数量 (万t)	909	820	850
セメント (米国) 販売数量 (万st)	163	173	179
生コン (米国) 販売数量 (万cy)	674	674	704
一般炭価格 (参考指標) (\$/t)	356	142	180
ドル為替レート (円/ドル)	135	144	145

※ 上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。

### (参考) 2024年3月末 連結貸借対照表

(単位: 億円)

総資産	8,129	有利子負債	1,807	自己資本	3,649
自己資本比率	44.9%	D/Eレシオ	0.49倍		

- 国内事業：
 

2023年度は、セメント事業で5,000円/t値上げの完遂や安価熱エネルギーの使用拡大等の改善効果があり、黒字を達成した。

2024年度は、セメント事業で物流費や資材価格の上昇、環境エネルギー事業で電力販売減少等の減益要因はあるが、セメント値上効果の年間を通じた寄与と安価熱エネルギーの更なる使用拡大により、国内事業全体では2023年度並みの営業利益を見込む。
- 海外事業：
 

2023年度は、主に米国生コン事業での値上げの早期の浸透等の効果により、対前年で大幅な増益となった。

2024年度は、米国セメント・生コン事業では、資材価格や人件費等が上昇しコストアップとなるが、南カリフォルニア地区の需要回復による販売数量増や更なる値上げにより前年度並みの営業利益を見込む。一方で、豪州石炭事業では減益を見込んでおり、海外事業全体の営業利益は2023年度と比較して減益を見込む。

33

24年度の業績予想、UBE三菱セメントでは売上高は6,050億円、営業利益は430億円です。営業利益では、23年度対比で27億円の減益を見込んでおります。

その要因のご説明を下に書いておりますが、国内、海外ともにプラス要因、マイナス要因がありますが、セメント事業につきましてはおおむね前年度並みを見込んでおります。

ただ、最後の行に書いておりますけれども、海外の豪州石炭事業では減益を見込んでおります。これが主な要因となり、営業利益では減益を予想しております。これにより、当社が持分法投資損益で取り込む金額は110億円となり、前年度対比で20億円のマイナスとなります。

## 営業利益～当期純利益

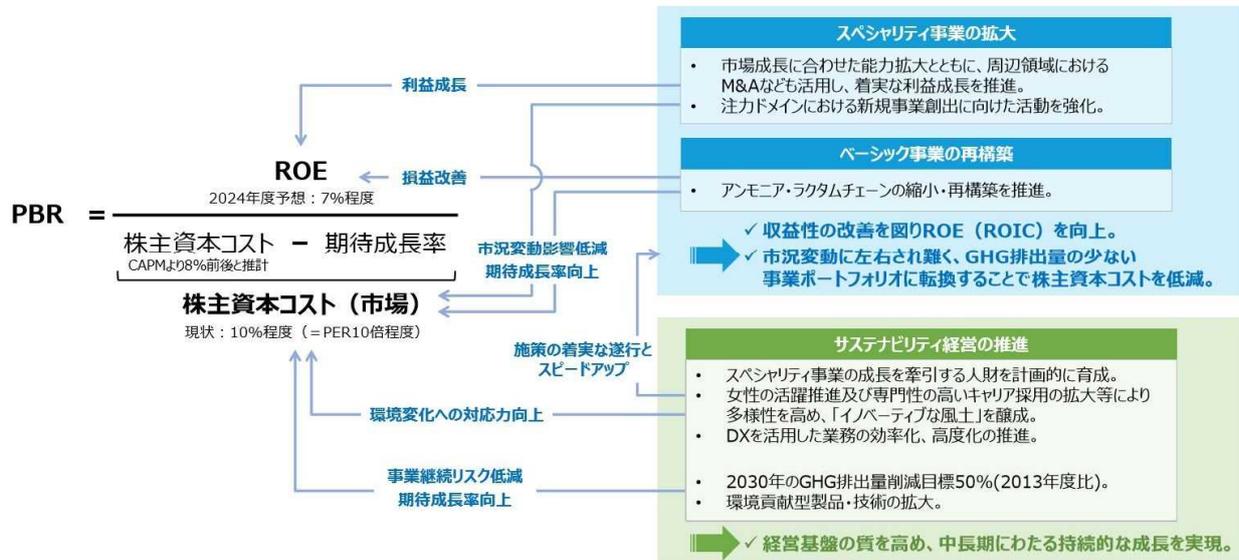
(単位：億円)

項目	2023年度 (A)	2024年度 (B)	差異 (B) - (A)
営業利益	225	270	45
営業外損益	139	100	△ 39
うちUBE三菱セメント㈱に係る持分法投資損益	130	110	△ 20
経常利益	363	370	7
特別損益	△ 13	10	23
税金等調整前当期純利益	351	380	29
法人税等・非支配株主利益	△ 61	△ 85	△ 24
親会社株主に帰属する当期純利益	290	295	5
1株当たり当期純利益	298.59円	303.89円	5.30円

25

25 ページに戻っていただきまして、UBE 三菱セメントに係る持分法投資損益は以上のご説明のとおり、対前年度で 20 億円のマイナスです。対前年度の営業外損益のマイナスのうち残りの 19 億円につきましては、23 年度にありました一過性の配当金がなくなることが要因です。

以上の要因により、経常利益は 370 億円となり、23 年度対比ではわずかではありますが 7 億円の増益を見込んでおります。親会社株主に帰属する当期純利益につきましても 295 億円となり、前年度対比では 5 億円の増益を見込んでおります。



最後、26 ページに、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、記載しております。

詳細はご説明いたしませんですが、PBR については ROE が分子、株主資本コストが分母としますと、分子の ROE を改善するために当社ではスペシャルティ事業の拡大、それからベーシック事業の再構築に取り組んでまいります。

また、分母の株主資本コストを低下させるため、ベーシック事業の再構築により収益変動、ボラティリティの低下に取り組んでまいります。

さらに、期待成長率を向上させるため、例えば女性活躍の推進、ダイバーシティの推進、DX の推進などに取り組んでまいります。

また、地球環境問題への対応を進めることにより、株主資本コストに含まれていると思われます、ディスカウント要因も取り除いてまいりたいと考えております。

少し長くなりましたけれども、ご説明は以上です。

## 質疑応答

---

### 【機能品について】

Q1：2024年度予想の営業利益差異分析において、「固定費ほか」がマイナスとなる要因は何か。

A1：ポリイミドにおける原料BPDA設備やフィルム設備の稼働に伴う償却費の増加や、関連する労務費の増加など、様々な要因を見込む。

Q2：2024年度のポリイミド事業の見通しはどうか。

A2：COFは、2023年度3Q以降に在庫調整の影響を受けた。2024年度1Qからは回復を見込んでいるが、力強い回復ではないと想定している。

ワニスは、2023年度3Q以降、スマホ需要の低迷に加えて、中国においてローエンドスマホ中心に中国産ワニスの採用が進んでいる影響を受けた。2024年度は、スマホの新モデル発売もあるが、力強い回復にはならないと想定している。

### 【樹脂・化成品について】

Q3：2023年度の営業利益が会社想定よりも上振れた理由は何か。

A3：ナイロンポリマーの改善が大きな要因である。タイではインド向けの需要などが堅調であり、また原料価格が下落している。ヨーロッパでは足元の需要が回復基調にある。

Q4：2023年度、2024年度におけるC1ケミカルのロイヤリティ収入の推移を教えてください。

A4：2023年度のロイヤリティ収入は少額であったが、2024年度は一定の収入を見込んでいる。

Q5：定期修理やロイヤリティ収入といった特殊要因を除いた 2024 年度の事業環境について、どのように想定しているか。

A5：2023 年度下期に業績が多少改善したが、2024 年度もその状況が続くと想定している。定期修理等の影響により上期の営業利益は 10 億円にとどまるが、下期においては事業環境の改善が顕在化すると見込んでいる。

Q6：2024 年度の国内ラクタム縮小による損益影響はどの程度か。

A6：国内ラクタムは製造プロセス 2 系列のうち片方を停止するが、停止するのみであり設備の廃棄を行うわけではない。そのため、一過性の損益影響は特段発生しないと考えている。

#### 【機械について】

Q7：2024 年度の機械セグメントは減益予想だが、この要因は何か。

A7：産機の減益が最大の要因である。これまでバイオマス発電設備向けが堅調だったが、それが一段落したため、製品販売が減少する見込みである。加えて固定費の増加も想定している。

#### 【UBE 三菱セメントについて】

Q8：2024 年度は減益の見通しだが、その要因について教えてほしい。

A8：2024 年度もセメントの国内需要は低水準のまま推移し、物流費や資材価格も上昇すると見ている。一方、2024 年度は 2023 年度に実施した値上げ効果が通年で寄与するため、営業利益は 2023 年度並みになると見込んでいる。

北米のセメント、生コン事業についても、資材価格や人件費の高騰等が想定されるものの、南カリフォルニアにおける需要が増加するため、販売数量増や値上げの効果等でコストアップ分を補い、2023 年度並みになると見込んでいる。

結果、豪州石炭事業における減益が 2024 年度の UBE 三菱セメント社の減益要因となっている。